たまシネマ通信　2018年3月10日発行

TAMA CINEMA 通信

TAMA CINEMA FORUM
TAMA映画フォーラム実行委員会　〒206－0025 多摩市永山1－5　ベルブ永山（永山公民館内）
代表：042－337－6661　直通：080－5450－7204　http://www.tamaeiga.org/

特別上映会 3/10 土 ベルブホール（ベルブ永山 5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約 2 分）

もやってる 夜間保育園

大宮浩一 監督作品

© 夜間もやってる製作委員会

（2017 年 / 111 分 / 日本 / ドキュメンタリー　配給：東風）

上映スケジュール

10:15 ― 12:06　第 1 回上映
（赤ちゃん・幼児と一緒に鑑賞できます ★保育サービスあり）

13:00 ― 14:51　第 2 回上映
（★保育サービスあり）

15:00 ― 16:00　ゲストトーク
16:30 ― 18:21　第 3 回上映
19:00 ― 20:51　第 4 回上映

＊全席自由・各回入替制。開場は 15 分前です。
＊上映時間は変更になる場合があります。

チケット料金

前売：大人	（中学生以上）	1,000 円
当日：大人	（中学生以上）	1,200 円
子ども	（4 歳～小学生）	600 円

（TAMA 映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者 1 名は当日 600 円です）

スペシャルトーク　（共催：多摩市立永山公民館）

ゲスト　大宮浩一監督
西川正氏（特定非営利活動法人ハンズオン埼玉理事）
篠崎裕子氏（特定非営利活動法人どんぐりパン理事長）
近藤直恵氏（社会福祉法人至愛教会かしのき保育園保育士）

第 2 回上映後に
スペシャルトークを実施します。
※「スペシャルトーク」のみの
参加は無料です。

企画者からのメッセージ

2010 年 8 月、『ただいま それぞれの居場所』という高齢者介護のドキュメンタリーでそれまでの介護現場の常識をくつがえしてみせた大宮浩一監督が「夜間保育園」という聞きなれない保育園の存在を私たちに提示してきました。

「保育士が足りない」「待機児童が溢れている」連日のように報道されている保育園の問題。

私たちは、しがらみの多い家族制度からの解放と引き換えに荒れ野に立つ個の自由を獲得してきました。必然的に生じた子育ての問題。働きながら子供を育てる。今や当たり前になった子育てのスタイル。そして多様化しているワーキングのスタイル。追いつかない公の子育て支援。狭間で震えているのは相変わらずの孤立した親と子。

子供を犠牲にしてまで夜働くのか、偏見や批判も多くある夜間保育園。全国に約 80 の認可保育園。大宮監督は丁寧にひろっていく。歌舞伎町に隣接する大久保で 24 時間保育を行う保育園から北海道、新潟、沖縄と現場を巡っていく。完全オーガニック給食による食育、多動的な子どもたちへの療育プログラム、卒園後の学童保育など独自の錯誤を続けている保育園。孤立する親と子を温かく包んでいく。今観なければ、そして知らなければいけない喫緊のドキュメンタリーです。

今期第一回目の特別上映会。ぜひ子どもと観てください。（竹内 昇）

http://www.tamaeiga.org/special/yakanhoiku/

SPECIAL cinema review

実行委員の観た 夜間保育園 もやってる

（大宮浩一監督／ 2017 年）

冒頭で聴こえてくるゆりかごの歌。実際の現場でもこの歌を子守唄に子どもが眠りにつくことも多いが、馴染みのあるこの子守唄を歌うのは、昼寝のためではないのだと気付いたときに「夜間もやってる保育園」の言葉の意味をひしひしと感じた。

夜間保育園という言葉を聞いて肯定的な意見を持つ人が多いイメージはなかった。きっと第一声には保護者に対する非難の声があがるのが現状なのではないだろうか。そんなイメージを持ったのは私自身がどこかで「子どもが可哀想…」という気持ちを少なからず心の何処かに持っている一人であったから。保育士という立場であるからには、働く保護者の一番の味方でなくてはならないと分かっていながらも、保育士だからこそ子どもにとって親の存在がどれだけ大きいのかということも痛いほど分かっている。そんな自分のなかの葛藤も抱えつつ鑑賞した今作。

劇中の夜間保育園に通う子どもに可哀想という言葉は似合わないほど皆いきいきしていて、親と子ども両者のことを考えるからこそ成り立つ暮らしがそこにはあった。保育はサービスではないと思っている。保護者と保育士がサービスを提供し、受けるという単純な関係ではないということを改めて感じた。もっとたくさん思うことはあるけれど、保育士として子どもはもちろん、いつでも保護者の味方であり続けたいと思える作品だった。（久保麻美）

本作のあらすじや解説は本紙の別面に載るであろうからそちらへ譲るとして（笑）、ここでは感想を中心に述べていきたい。ドキュメンタリー映画の魅力について考えたときに、自分ではない誰かの人生を深くじっくりと追体験できる点が挙げられるのではないだろうか。特に、それがマイノリティの人たちのものであればなおさら。本作もその範疇に入るであろう 1 つである。

「夜間保育園」という言葉からそのおおよそについては察しがつくであろうが、詳しいところまでを知る人はそうはいないと思う。たとえば、認可夜間保育園の数は全国でも約 80 しかないことをご存知だろうか。その意味でまずは幅広い方々に観ていただきたい作品である。夜間保育園――その存在に対しては批判も少なくないと聞いているが、それにしてもどのような育児がされているか、どのような背景の人たちがどのような思いで頼みにしているかを知った上でされてしかるべきだろう。また、舞台となる地もさまざまで、東京の都心から北は北海道、南は沖縄までに渡る。都市と自然の調和したここ多摩とは異なるかの地での暮らしにも思いを馳せていただけば、その問題意識もより深まることと思う。（中原章智）

© 夜間もやってる製作委員会

実行委員のおススメ映画コーナー

ここでは実行委員のおススメ作品を紹介いたします。ネタバレもありですのでご注意を。

『さとにきたらええやん』（重江良樹監督／2015年）

「世の中には貧しくて不幸な子がたくさんいるってのに、アンタってばいつもぐうたらして……」と、小中学生の頃に母からよく言われた。その度に、自分には自分なりの生きづらさがあるのだと憤り、貧困という「わかりやすい困難」を抱える会ったこともない不幸な子どもたちを羨ましく感じたりもした。

『さとにきたらええやん』を観て、ふとそんな気持ちを思い出した。日雇い労働者の街、釜ヶ崎で「さと」と呼ばれて親しまれるこどもの里は、学童クラブであり、緊急一時宿泊施設であり、ファミリーホームでもある子どもの居場所だ。

映画では、中学生、高校生、五歳児の三人にスポットを当て、障害、貧困、虐待、不登校といった問題を、どこかの誰かの個人的な話ではなく、目の前にこの子たちがいたら何かせずにはいられなくなるような身近な出来事として差し出してくる。

人権が薄皮一枚分しかない「わかりやすい困難」のなかでひたむきに生きる「さと」の子どもたちを、やはり羨ましく思うのはなぜだろうか。ひとまずは身近な人の抱える「わかりにくい困難」に気づく目と助ける手を準備しながら考えていきたい。（永井 理）

『咲 -Saki- 阿知賀編 episode of side-A』（小沼雄一監督／2018年）

前作『咲 -Saki-』では主人公の咲が在籍する清澄高校が麻雀で全国大会を目指すというある種の熱血スポコン映画であった。本作『咲 -Saki- 阿知賀編 episode of side-A』は、その清澄高校のメンバーの原村和がかつて在籍していた奈良県の女子校・阿知賀女子学院が全国大会での優勝を目指す作品である。そのため、『咲』というタイトルにもかかわらず主人公の咲は一瞬しか登場せず、阿知賀女子学院の高鴨穏乃（演ずるは『祈りの幕が下りる時』で好演した桜田ひより）が主演となっている。ちなみに前作で咲を演じた浜辺美波は咲の姉の宮永照を演じている。

展開は前作とほぼ同様な感じで女子高生たちがひたすら麻雀をするストーリだが、メンバー間の愛憎や葛藤や対立が丁寧に表現され、時には超能力としか思えないワザも繰り出される。

本作では全国大会準決勝までが描かれているが、早く決勝編も作ってもらいたいものだ。（吉野 治）

『劇場版 ウルトラマンX きたぞ！われらのウルトラマン』（田口清隆監督／2016年）

最近は特撮と言ってもCGばっかなんでしょ？

なんて思っていたら大間違い。この作品は、ウルトラマン50年の歴史を積み重ね、もはや変態技術と言えるほど熟練しまくったミニチュアワークに、それらに馴染むよう独自に進化した合成、CG技術が駆使された、現代のハイブリット特撮映画である。ウルトラマンと怪獣の格闘、防衛チームの戦闘機、等身大の人間達が戦う姿が一画面に展開され、それがミニチュア、CG、実写の見分けがつかないほど自然に作られている。ハリウッド大作でも、実験自主映画でも今まで見たことも無いような新しい映像が次々と登場し、しかもそれが凄い風に見せずにさらっとやってしまう。そのおかげで、技術に見とれず純粋にウルトラマンや怪獣のカッコよさに陶酔できる。これぞ「怪獣映画」な怪獣たちの暴れっぷり、これぞ「ウルトラマン」なヒロイックさと神々しさ。かつて怪獣少年であった田口監督による、ツボをおさえまくった演出に子供はもちろん、大人も子供に戻った感覚でアツくなる。いつの間にか「頑張れウルトラマン！」と声援を送ってしまうこと間違いなしである。（横倉駿介）

『悪女』（チョン・ビョンギル監督／2017年）

オープニングの主観映像からのアクションシーンで一気に物語に引き込み、最後まで魅せる。

父親を殺された主人公の少女スクヒは犯罪組織に凄腕の殺し屋として育てられるが、自らの愛する人を殺された復讐を遂げた際に警察に逮捕される。スクヒは国家組織に拘束され、国家勅命の暗殺者になる。スクヒは任務を果たしながらも自らの監視者と恋に落ちてしまう。だがその裏では大きな陰謀がうごめいていた……。

かつての傑作アクション映画群『ニキータ』『レオン』『キルビル』や韓国映画『シュリ』『オールド・ボーイ』『哀しき獣』などのエッセンスをすべて容赦なくぎゅうぎゅうに詰め込んで濃縮還元したような作品である。ストーリーはある程度予想通りの展開となるが、すさまじいまでのアクションの連続とひたすら主人公をカッコ良く美しく撮影しているため最後まで十分に楽しめる。

この映画の悪女はマリコの部屋に電話をかけて男と遊んでる芝居なんかは絶対にしないのだ。（吉野 治）

次回特別上映会

4/7㈯ ベルブホール

THE OTHER SIDE OF HOPE

希望のかなた

© SPUTNIK OY, 2017

次回特別上映会は４月７日（土）に『希望のかなた』（アキ・カウリスマキ監督）を上映いたします。

フィンランドの巨匠アキ・カウリスマキ監督による『ル・アーヴルの靴みがき』に続く難民３部作の第２弾となるヒューマンドラマです。ヘルシンキを舞台に生き別れた妹を捜すシリア人の難民とレストランのオーナーや従業員たちとの交流をそこはかとないユーモアを交えて描きます。ベルリン国際映画祭で銀熊賞（監督賞）受賞作品。ぜひご覧ください。

お知らせコーナー

実行委員募集！

TAMA 映画フォーラム実行委員会は、2018 年 11 月 17 日～ 11 月 25 日に開催予定の第 28 回映画祭 TAMA CINEMA FORUM を一緒に作る実行委員を募集しています！ 興味のある方、企画・運営などの映画祭の裏側に携わってみませんか？

上映プログラムを企画したい、イベント運営に興味がある、広報・宣伝をやりたい ... など、映画祭づくりの現場には、あなたの希望に沿って力を発揮できる領域がたくさんあります。また、映画好きやイベント好き、地域の方々など、市民が作る映画祭だからこその出会いがあなたを待っています。

４月 15 日（日）に説明会を開催いたしますので、興味のある方はお申込のうえ、ぜひご参加ください。また日程の合わない方は個別に説明いたしますので、お気軽にご相談ください。詳細はホームページをご覧ください。

支援会員制度のお願い

当映画祭を一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願い致します。

［支援金寄付　個人会員］一口 1,000 円
郵便振替番号　00160 － 5 － 541123　　加入者名　TAMA 映画フォーラム実行委員会
（ご不明な点はお問い合わせ下さい）

特典①：映画祭チラシ送付
特典②：映画祭パンフレット贈呈
特典③：特別上映会割引（当日チケットを支援会員特別価格に! 上映会は２～８月の間に４～５回開催予定）
※その他特典もご用意する予定です。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ　**www.tamaeiga.org**

@tamaeiga（最新情報をフォロー）　**www.facebook.com/tamaeiga**（facebookページに「いいね!」で参加）

たまシネマ通信　Mar. 2018　Issued by *TAMA CINEMA FORUM*
Editor in Chief　*O. Yoshino*　Editorial Design　*F. Iizuka*　Contributing Editors　*TAMA CINEMA FORUM Staff*
禁無断転載